

安全データシート

改訂日：2024年9月25日

1. 製品及び会社情報

化学品の名称
推奨用途
会社名
住所
電話番号

アセトニトリル
試験研究用
米山薬品工業株式会社
大阪市中央区道修町2丁目3番11号
(06)6231-3555 (大阪・本社)
(03)3246-2311 (東京) (0268)22-5910 (上田)
(052)504-2221 (名古屋) (082)537-0290 (広島)
AA0410

整理番号

2. 危険有害性の要約

GHS分類
物理化学的危険性
健康に対する有害性

引火性液体：区分2
急性毒性（経口）：区分5（UN）
急性毒性（経皮）：区分3
急性毒性（吸入・蒸気）：区分4
皮膚腐食性及び皮膚刺激性：区分3（UN）
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性：区分2
特定標的臓器・全身毒性：区分1（中枢神経系／呼吸器）
（単回ばく露）
特定標的臓器・全身毒性：区分2（血液系／中枢神経系／呼吸器）
（反復ばく露）
／肝臓／腎臓

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語
危険有害性情報

危険
引火性の高い液体及び蒸気
飲み込むと有害のおそれ
皮膚に接触すると有毒
吸入すると有害（蒸気）
軽度の皮膚刺激
強い眼刺激
臓器の障害（中枢神経系／呼吸器）
長期にわたる又は反復ばく露による臓器の障害（血液系／中枢神経系／呼吸器／肝臓／腎臓）

注意書き

【安全対策】
熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。
容器を密閉しておくこと。
容器を接地すること／アースをとること。
防爆型の電気機器／換気装置／照明機器等を使用すること。
火花を発生させない工具を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
屋外又は換気のよい場所でのみ使用すること。
ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
適切な保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
【応急措置】
火災の場合：適切な消火剤と方法で消火活動を行うこと。
皮膚または髪に付着した場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと／取り除くこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。
汚染された衣類は直ちに全て脱ぎ、再使用する場合は洗濯すること。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断／手当てを受けること。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪いときは医師に連絡すること。
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合、医師の診断／手当てを受けること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断／手当てを受けること。

（長期にわたる又は継続的ばく露により）気分が悪い場合は医師の診断／手当てを受けること。

【保管】

容器を密閉して涼しく換気の良いところで保管すること。

施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物、容器を国又は都道府県の規則に従って廃棄すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別

化学名

別名

化学式

化学物質を特定できる一般的な番号

成分及び含有量

官報公示整理番号(化審法、安衛法)

その他

化学物質

アセトニトリル

エタンニトリル、シアン化メチル、メチルシアニド

CH₃CN

CAS RN：75-05-8

アセトニトリル100%（純度99.5%以上のもの・代表値：99.5%）

(2)-1508 / 公表

HSコード：2926.90

4. 応急措置

吸入した場合

新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい体勢で休息すること。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合

直ちに汚染された衣類をすべて脱ぎ、皮膚を速やかに洗浄すること。

多量の水と石鹸で洗うこと。

気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。

眼に入った場合

汚染された衣類を再利用する前に洗濯すること。

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が持続する場合は、医師の診断/手当てを受けること。

飲込んだ場合

気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。

口をすすぐこと。

気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候症状

吸入：咽頭痛、脱力感、腹痛、息苦しさ、痙攣、意識喪失、嘔吐。（症状は遅れて現れることがある。）

皮膚：発赤

眼：発赤、痛み

経口摂取：上記「吸入」参照。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

使ってはならない消火剤

特有の危険有害性

炭酸ガス、粉末消火剤、散水、耐アルコール性消火剤

棒状注水

極めて燃え易い。熱、火花、火災で容易に発火する。

加熱により容器が爆発するおそれがある。

火災によって刺激性、毒性又は腐食性のガスを発生するおそれがある引火性の高い液体及び蒸気。

特有の消火方法

引火点が極めて低いため消火の効果がないおそれがある場合散水する危険でなければ火災区域から容器を移動する。

移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。

消火後も大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

消火を行う者の保護

消火作業の際は、適切な空気呼吸器と化学用保護衣を着用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。

直ちに全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

関係者以外の立入りを禁止する。

作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

適切な保護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。

漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。

風上に留まる。

低地から離れる。

密閉された場所に立入る前に換気する。

環境に対する注意事項	河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。 環境中に放出してはならない。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。 少量の場合、吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いる。 大量の場合、散水は蒸気濃度を低下させる。しかし密閉された場所では燃焼を抑えることが出来ないおそれがある。 危険でなければ漏れを止める。 漏出物を取り扱うとき用いる全ての設備は接地する。 蒸気抑制泡は蒸気濃度を低下させるために用いる。 全ての発火源を速やかに取り除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。
	排水溝、下水道、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	
技術的対策（局所排気、全体換気等）	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
安全取扱い注意事項	周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。 接触、吸入、又は飲み込まないこと。 眼に入れないこと。 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 酸性溶液、塩基性溶液、プラスチック、ゴム、被膜材 取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
接触回避 衛生対策	
保管	
技術的対策	保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ梁を不燃材料で作ること。 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他のの軽量な不燃材料で葺き、かつ天井を設けないこと。 保管場所の床は、床面が水に侵入し、又は浸透しない構造とすること。 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ適切なためすを設けること。 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な換気の設備を設けること。 光を遮り保存すること。 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。 酸化剤から離して保管すること。 容器は直射日光や火気を避けること。 容器は密閉して換気の良い冷所で保管すること。 施錠して保管すること。 ガラス、スチール。
安全な保管条件	
安全な容器包装材料	
8. ばく露防止及び保護措置	
管理濃度	未設定
許容濃度	未設定
日本産業衛生学会 ACGIH	TLV-TWA 20ppm、34mg/m ³ (Skin)
濃度基準値	10ppm
8時間 短時間	未設定
設備対策	防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 空気中の濃度をばく露以下に保つために排気用の換気を行うこと。 高熱工程でミストが発生する時は、空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置すること。
保護具	
呼吸器の保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
眼の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。

皮膚及び身体の保護具

適切な保護衣を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態

色

臭い

融点/凝固点

沸点又は初留点及び沸点範囲

可燃性

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界

引火点

自然発火温度

分解温度

pH

動粘性率（粘度）

溶解度

n-オクタノール/水分配係数

蒸気圧

密度及び/又は相対密度

相対ガス密度

粒子特性

液体

無色透明

特徴的な臭気

-46℃(融点/凝固点)

81.6℃(沸点又は初留点及び沸点範囲)

引火性の高い液体

3.0~16vol%

9.5℃(タグ密閉式)

524℃

該当情報なし。

該当情報なし。

0.35mPa・s(20℃)

水、アルコール、エーテルと自由に混和する。

logPow=-0.34

9.7kPa(20℃)

0.781~0.785(20℃/20℃)(規格値)

1.42

該当情報なし。

10. 安定性及び反応性

反応性、化学的安定性

危険有害反応可能性

避けるべき条件

混触危険物質

危険有害な分解生成物

光により変質することがある。

酸化剤との混触により発熱、発火する。

酸性水溶液、塩基性溶液と反応して有毒なヒュームを生じる。

加熱、蒸気の漏洩、光

酸性水溶液、塩基性溶液、プラスチック、ゴム、被膜材

燃焼したとき、有毒ガス(シアン化水素、シアンヒドリン、窒素酸化物)を発生する。

11. 有害性情報

急性毒性

経口 : ラットのLD50値として、1,315 mg/kg(雄)、1,730 mg/kg(雌)、2,230 mg/kg(雌)、2,460 mg/kg(雄)、3,053 mg/kg(雄)、3,200 mg/kg、3,445 mg/kg(雄)、3,800 mg/kg、4,050 mg/kg(雌)、6,702 mg/kg(雌)(EHC 154(1993))との10件の報告があり、2件が区分4、7件が区分5(国連分類基準)、1件が区分外に該当する。件数の多い区分を採用して区分5とした。(JIS区分外)

経皮 : ウサギのLD50値として、395 mg/kg(雄)(75%水溶液)、978.8 mg/kg(雄)(原液)(EHC 154(1993)、EU-RAR(2002)、NITE初期リスク評価書(2007))、3,915 mg/kg(原液)(EHC 154(1993)、EU-RAR(2002)、PATTY(6th, 2012))との3件の報告があり、2件が区分3、1件が区分5(国連分類基準)に該当する。件数の多い区分を採用して区分3とした。

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

ウサギを用いた複数の皮膚刺激性試験において、本物質に刺激性はみられない、又は軽度の刺激性を示すとの報告(NITE初期リスク評価書(2007))、EU-RAR(2002))から区分3とした。(JIS区分外)

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

ウサギを用いた眼刺激性試験において、本物質の眼刺激性は中等度又は重度の刺激性を示すとの報告(NITE初期リスク評価書(2007)、EU-RAR(2002))から、区分2とした。なお、EU CLP分類において本物質はEye Irrit. 2に分類されている(ECHA CL Inventory(Access on June 2017))。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器 : データ不足のため分類できない。(分類できない)

皮膚 : モルモットを用いた皮膚感作性試験において、陰性との記述(EU-RAR(2002))があるが、詳細は不明のため分類できないとした。(分類できない)

生殖細胞変異原性

In vivoでは、吸入ばく露によるマウスの末梢血を用いた小核試験で陽性、腹腔内投与によるマウスの骨髓細胞、末梢血を用いた小核試験で陰性、ラットの肝細胞を用いた不定期DNA合成試験で陰性である（NITE初期リスク評価書（2007））、ACGIH（7th, 2002）、DFGOT vol.19（1993）、EU-RAR（2002）、IRIS Tox.Review（1999）、EHC 154（1993）、NTP TR447（1996）、環境省リスク評価第3巻（2004））。In vitroでは、細菌の復帰突然変異試験で陰性、哺乳類培養細胞の遺伝子突然変異試験、マウスリンフォーマ試験、染色体異常試験で陰性、姉妹染色分体交換試験で弱陽性である（NITE初期リスク評価書（2007）、ACGIH（7th, 2002）、DFGOT vol.19（1993）、EU-RAR（2002）、IRIS Tox.Review（1999）、EHC 154（1993）、NTP TR447（1996）、環境省リスク評価第3巻（2004））。

以上より、in vivo試験で陽性と報告されている2件の小核試験（腹腔内投与によるマウス骨髓細胞を用いた試験、吸入によるマウス赤血球を用いた試験）はいずれも欠点があり、また、用量反応性も明確でないことに加え、OECD TGに従って実施した小核試験（腹腔内投与によるマウス骨髓細胞と末梢血を用いた試験）では陰性であったことから、EU-RARでは総合的な遺伝毒性評価として遺伝毒性の有無については明確に判断することはできないとしている。したがって、小核での明確な陽性知見がないことから分類できないとした。旧分類に記載されたin vivo小核試験の陽性結果は不明確であることから、区分を見直した。

発がん性

ラット及びマウスに2年間吸入ばく露した発がん性試験において、ラットの雄では高用量で肝細胞腺腫と肝細胞がんの合計頻度のわずかな増加がみられたが、雌ラット及び雌雄マウスには腫瘍性病変の頻度増加はみられなかった（NTP TR447（1996））。NTPは雄ラットで発がん性の不確かな証拠、雌ラット及び雌雄マウスでは発がん性の証拠なしと結論した（NTP TR447（1996））。既存分類ではACGIHでA4（ACGIH（7th, 2002））、EPAでCBD（cannot be determined）に分類されている（IRIS（1999））。以上より分類できないとした。

生殖毒性

妊娠ラット、又は妊娠ウサギを用いた経口投与による発生毒性試験では、母動物に死亡例、体重増加抑制、吸収胚の増加がみられる最高用量（ラットで275 mg/kg/day、ウサギで30 mg/kg/day）においても胎児に重大な発生影響はみられなかった（NITE初期リスク評価書（2007）、ACGIH（7th, 2002）、環境省リスク評価第3巻（2004））。また、妊娠ラットを用いた吸入ばく露による2つの発生毒性試験においても、母動物に死亡がみられる用量で胎児に影響はみられていない（NITE初期リスク評価書（2007）、ACGIH（7th, 2002））。なお、妊娠ハムスターの妊娠8日に単回吸入ばく露した試験では、母動物に死亡例が発生する濃度の2倍以上の高濃度では外脳、脳瘤、肋骨癒合など奇形発生の報告がある（NITE初期リスク評価書（2007）、ACGIH（7th, 2002）、環境省リスク評価第3巻（2004））。以上、動物試験結果より、経口及び吸入経路で実験動物では発生影響を示す可能性は低いと考えられるが、生殖能・性機能への影響に関する情報がなく、データ不足のため分類できない。

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

ヒトでは本物質の誤飲や自殺企図による経口摂取例、及び工場での事故による急性吸入ばく露例が複数例報告されており、急性影響は、疲労感、悪心、嘔吐、錯乱、痙攣、昏睡等であり、重度の場合は死に至るとの記載がある（NITE初期リスク評価書（2007））。また、吸入ばく露で鼻、喉に刺激があるとの報告がある（NITE初期リスク評価書（2007））。

実験動物では、マウスの単回経口投与試験で区分2範囲の300～2,000 mg/kgで、自発運動低下、振戦、衰弱、正向反射低下、努力呼吸、痙攣、喘ぎ、流涎が認められたとの報告がある（EU-RAR（2002）、NITE初期リスク評価書（2007））。また、マウスの4時間単回吸入ばく露試験で区分2範囲の3,039～5,000 ppmで、自発運動低下、歩行異常、正向反射消失、緩徐呼吸、努力性呼吸、速呼吸、喘ぎ、体温低下、後肢伸展、横臥位、被毛の黄色化が認められたとの報告（EU-RAR（2002）、NITE初期リスク評価書（2007））、及びマウスの1時間単回吸入ばく露試験で500～5,000 ppm（4時間換算値：250～2,500 ppm、区分1範囲に相当）で、重度の呼吸困難、あえぎ、振戦、痙攣が認められたとの報告（EHC 154（1993）、EU-RAR（2002）、NITE初期リスク評価書（2007））がある。更に、ラットの8時間単回吸入ばく露試験で生存例と死亡例の両方に肺の出血とうっ血が認められたとの報告がある（EU-RAR（2002）、NITE初期リスク評価書（2007））。この試験では用量の詳細な記載はないが、LC50値（4時間換算値）は10,678 ppm（雄）、17,585 ppm（雌）と報告されており、影響は区分2範囲の用量でみられたと考えられる。以上の情報から、本物質は中枢神経系と呼吸器に影響を与えられ、したがって区分1（中枢神経系、呼吸器）とした。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

ヒトに関する情報はない。

実験動物については、ラットを用いた蒸気による13週間吸入毒性試験（6時間/日、5日間/週）において、区分2のガイダンス値の範囲内である800 ppm（1,340 mg/m³（90日換算：0.97 mg/L））以上で死亡、自発運動低下、被毛粗剛、胸腺の重量減少、貧血症状（赤血球数・ヘモグロビン濃度・ヘマトクリット値の減少）、死亡例で肺のうっ血及び水腫、肺胞・脳出血、骨髓細胞減少、胸腺の萎縮、脾臓のリンパ球減少、卵巣の黄体減少がみられ（NITE初期リスク評価書（2007）、環境省リスク評価第3巻（2004）、NTP TR447（1996））、ラットを用いた蒸気による90日間吸入毒性試験（7時間/日、5日/週）において、区分2のガイダンス値の範囲内である166 ppm（279 mg/m³（90日換算：0.33 mg/L））以上で肺拡張不全、肺胞の組織球性細胞集簇、330 ppm（554 mg/m³（90日換算：0.65 mg/L））以上で気管支炎、肺炎がみられている（NITE初期リスク評価書（2007）、EU-RAR（2002））。また、マウスを用いた蒸気による13週間吸入毒性試験（6時間/日、5日/週）において、区分1のガイダンス値の範囲内である100 ppm（168 mg/m³（90日換算：0.12 mg/L））以上で肝臓の重量増加、区分2のガイダンス値の範囲内である200 ppm（335 mg/m³（90日換算：0.24 mg/L））以上で前胃の上皮過形成を伴う限局性潰瘍、400 ppm（670 mg/m³（90日換算：0.48 mg/L））で死亡、肝細胞空胞化、800 ppm（1,340 mg/m³（90日換算：0.97 mg/L））で自発運動低下、円背位、筋硬直がみられ（NITE初期リスク評価書（2007）、NTP TR447（1996））、マウスを用いた蒸気による92日間吸入毒性試験（6.5時間/日、5日/週）において、区分1のガイダンス値の範囲内である100 ppm（168 mg/m³（90日換算：0.18 mg/L））以上で肝臓の重量増加、区分2のガイダンス値の範囲内である200 ppm（335 mg/m³（90日換算：0.36 mg/L））以上で死亡、赤血球数・ヘマトクリット値減少、肝細胞空胞化がみられている（NITE初期リスク評価書（2007））。

このほか、サルを用いた蒸気による91日間吸入毒性試験（7時間/日、5日/週）において、区分2のガイダンス値の範囲内である350 ppm（588 mg/m³）（ガイダンス値換算：0.69 mg/L）で脳の上矢状もしくは下矢状静脈洞の出血、肺の乾酪性結節、肝臓の退色、限局性肺気腫、肺胞上皮のび慢性増生、急性気管支炎、限局性マクロファージ色素沈着、腎臓の近位尿細管の混濁腫脹がみられている（NITE初期リスク評価書（2007））。

以上から、区分2（血液系、中枢神経系、呼吸器、肝臓、腎臓）とした。なお、前胃の所見は刺激によるものと考え分類根拠としなかった。

データ不足のため分類できない。なお、HSDB（Access on June 2017）に収載された数値データ（粘性率：0.35 mPa・s（20℃）、密度（比重）：0.78745）より、動粘性率は0.444 mm²/sec（2℃）と算出される。

誤えん有害性

1 2. 環境影響情報
生態毒性

短期：藻類（*Pseudokirchneriella subcapitata*）72時間EC50（速度法）>700 mg/L、魚類（メダカ）96時間LC50 >100 mg/L（ともに環境生態影響試験：2017）、甲殻類（オオミジンコ）96時間LC50 >100 mg/L（環境省環境リスク評価（第3巻）：2004）であることから、区分外とした。

長期：急速分解性があり（良分解性、BODによる平均分解度：65%（化審法DB：1998））、蓄積性がなく（LogPow：-0.34（PHYSPROP Database：2017））、甲殻類（オオミジンコ）の21日間NOEC（繁殖阻害）= 960 mg/L（環境省環境リスク評価（第3巻）：2004）、藻類（*Pseudokirchneriella subcapitata*）の72時間NOEC（速度法）= 700 mg/L（環境省生態影響試験：2017）であることから、区分外とした。

残留性・分解性
生体蓄積性
土壤中の移動性
オゾン層への有害性

該当情報なし。
該当情報なし。
該当情報なし。
当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

1 3. 廃棄上の注意
化学品、汚染容器及び包装の安全でかつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。

1 4. 輸送上の注意
国連番号
品名（国連輸送名）
国連分類
容器等級
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策

1648
アセトニトリル
クラス3
II
運搬に際しては容器に漏れないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。

国内規制がある場合の規制情報
陸上輸送
海上輸送
航空輸送
応急措置指針番号

消防法の規定に従う。
船舶安全法の規定に従う。
航空法の規定に従う。
127

1 5. 適用法令
化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律（化審法）
化学物質管理促進法（PRTR法）
毒物及び劇物取締法
労働安全衛生法

優先評価化学物質（第2条第5項）[アセトニトリル]
指定化学物質に該当しない。
劇物（第2条・指定令第2条）[有機シアン化合物]
名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物（第57条及び施行令18条、第57条の2及び施行令18条の2）[アセトニトリル]
危険物・引火性のもの（施行令別表第1）
皮膚等障害化学物質等及び特別規則に基づく不浸透性の保護具等の使用義務物質
第4類引火性液体第1石油類水溶性液体（第2条第7項危険物別表第1）

消防法

土壌汚染対策法
水質汚濁防止法
海洋汚染防止法

特定有害物質（施行令第1条）[シアン化合物]
有害物質（施行令第2条）[シアン化合物]
有害液体物質・Z類物質（施行令別表第1）[濃度が85重量%以上のアセトニトリル]
有害大気汚染物質に該当する可能性のある物質（中央環境審議会の第九次答申）[アセトニトリル]
揮発性有機化合物（第2条第4項 環境省から都道府県への通達）[アセトニトリル]

大気汚染防止法

船舶安全法
港則法
航空法

危険物・引火性液体類（危規則第3条危険物別表第1）
引火性液体（施行規則第12条危険物）
危険物・引火性液体（施行規則第194条危険物告示別表第1）

1 6. その他の情報
参考文献

NITE－CHRIP(製品評価技術基盤機構HP)
職場のあんぜんサイト（厚労省HP）
17423の化学商品（化学工業日報社）
国際化学物質安全性カード（ICSC）

記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。